

1. シンポジウムの概要と感想

平成 27 年 12 月 10 日（木）12:50 から教育学部本館 2 階会議室にて、平成 27 年度授業改善シンポジウムが開催された。今年度は、教職課程の最終授業科目である「教職実践演習」についての理解を深めるとともに、「教職実践演習」を通してみえてくる愛媛大学の教員養成カリキュラムの課題について考察し、個々の授業とのつながりを考える内容であった。

池野修先生の「教職実践演習」の全体像についてのお話と、山崎哲司先生の「教職実践演習」の他大学の実施状況についてのお話を伺い、愛媛大学の「教職実践演習」がしっかりとした教員養成カリキュラムのもとに構成されていることがよく分かった。他大学から愛媛大学へ赴任して、教職ポートフォリオの作成やリフレクションディの参加など愛媛大学の教員養成システムが大変充実していると感じていたが、最終的な確認の場として「教職実践演習」が位置づけられていることを再確認できた。一方で、教職ポートフォリオの作成が教員側の負担になっているのではないかと感じている。今後、「教職実践演習」の見直しが行われると思うが、「教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され形成されたか」について、「教職実践演習」の見直しだけではなく、これに附随するカリキュラムや学生の学びの軌跡、教職ポートフォリオなど多面的な面から検討されるのではないかと思った。

小田哲志先生の「教職実践演習」からみた学生の姿のお話は、「教職実践演習」と教育現場とのつながりを意識していくことの必要性を感じた。「教職実践演習」は、平成 18 年の答申により、平成 22 年から教員養成課程のある全大学で一斉に始まったものであるが、教職課程の学びの最終的な確認だけにとどまるのではなく、学校現場や地域の特性に結びついた内容であるべきだと考える。愛媛大学の「教職実践演習」では、多くの外部講

師を招いて学校現場の講演をしていただいているが、このシンポジウムで小田先生がご紹介してくださった現場の先生や校長先生、教育委員会などの資料は、愛媛大学教育学部教員にとって大変参考となるものであった。

2. 「教職実践演習」担当者としての課題

私は「教職実践演習」の 6 回目から 10 回目にあたる教科教育の時間を 2 年間担当してきた。学生の教育実習のふり返りや模擬授業などを見ると、4 年間の学生の成長を感じることができる。しかし、今回のシンポジウムの 3 人の先生の講演を聞いて、学生が「教職実践演習」を教職科目の集大成として位置づけ、4 年間の教職科目で培った能力とそれ以外の学生生活で獲得した能力を関連づけて授業を構成しているか、初回の授業でしっかりと確認しておくことが必要である。そのうえで学生達は、自分が不足していると感じる点を模擬授業やプレゼンテーションで改善できると思う。

3. 教職科目担当者としての課題

最近の学生の特徴として、指導技法（テクニク）は身につけているが、教材研究が十分にできていない状態で、教育実習に臨む学生が少なくないと感じる。私が担当している教科教育の授業では、教科の専門的知識の重要性、教材研究の大切さについて伝えているが、その思いが伝わらないままに終わっていることが多い。教育実習を行って、はじめてそこで専門性が身につけていなかったことに気づく学生が多く、中にはその事にも気づかずに卒業していく学生もいることは、大変問題だと思う。もっと、1, 2 回生の早い段階でそのことに気づき、専門の講義と教職科目とを関連づけることができれば、教員としての資質能力について 4 年間を通して十分に学ぶことができると考える。専門性の重要性にいかにつぶかせるかが今後の課題である。